

記録を守り 記憶を伝える

Graduate Course in Archival Science
Graduate School of Humanities
Gakushuin University



A photograph of a university campus featuring a wide, paved walkway lined with tall, mature trees with dense green foliage. Sunlight filters through the leaves, creating dappled shadows on the path. In the background, modern university buildings are visible. A white, serif font text "GREETING" is centered over the image.

GREETING

≫ あいさつ

石板・粘土板や紙をもちいたアナログの文書は、数千年もの間、人間と社会における説明、伝達、約束、記録、証明などあらゆる活動を支え、その過去の姿をも映しだしてきた。しかし、ICTsが伸展し、デジタル変容が加速する現代社会の中で、天文学的な数のデータを瞬時にやりとりするデジタル・システムに飲み込まれつつある。私たちはこれまで以上に、記録・アーカイブズを活用して、人間と対話し、社会を作り、文化を享受することができるのだろうか。

アーキビストがこの命運をにぎる。私たちは、デジタル／ハイブリッド環境の中で記録・アーカイブズの管理プログラムを策定し、その評価・収集、保存・利用、普及・教育等の知識・技能を身につける。そして、アーカイブズの専門職として、未知なる無数の課題をかかえる人間と社会に、時代を超える視点をもって奉仕するのである。

≫ 専攻の特色

学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻は、「アーカイブズ学」の研究教育を行う日本で初めての大学院課程として2008年に開設されました。博士前期課程では世界に通じるアーキビストとしての基礎を養成し、後期課程では上級アーキビスト、アーカイブズ機関の管理者、アーカイブズ学教育者となり得る人材を育成することを目標として、以下のような特色ある研究教育を行っています。なお、博士前期課程は、独立行政法人国立公文書館による「准認証アーキビスト」資格の取得に対応しているほか、一定の実務経験などを要求される「認証アーキビスト」において「アーキビストとして必要な知識・技能等について大学院修士課程における科目修得（中略）によって体系的に修得している」という認証要件に合致することが認められています。

- 理論と実践の調和を重視するとともに、諸標準をふまえたカリキュラム編成
- 経験豊かなアーキビストを含む充実した講師陣による授業
- アジア・欧米など海外の研究機関との活発な学術研究交流
- 社会人に配慮した夜間・土曜日中心の授業時間割
- 学外研修や自主企画などを通じた積極的な研究活動の奨励

A photograph of a university gate with the word 'CERTIFICATION' overlaid. The gate is made of red brick pillars and white metal doors. There are large trees on either side and a paved road in the foreground. The word 'CERTIFICATION' is written in a large, white, serif font across the center of the image.

CERTIFICATION

≫ 日本におけるアーキビストの資格制度

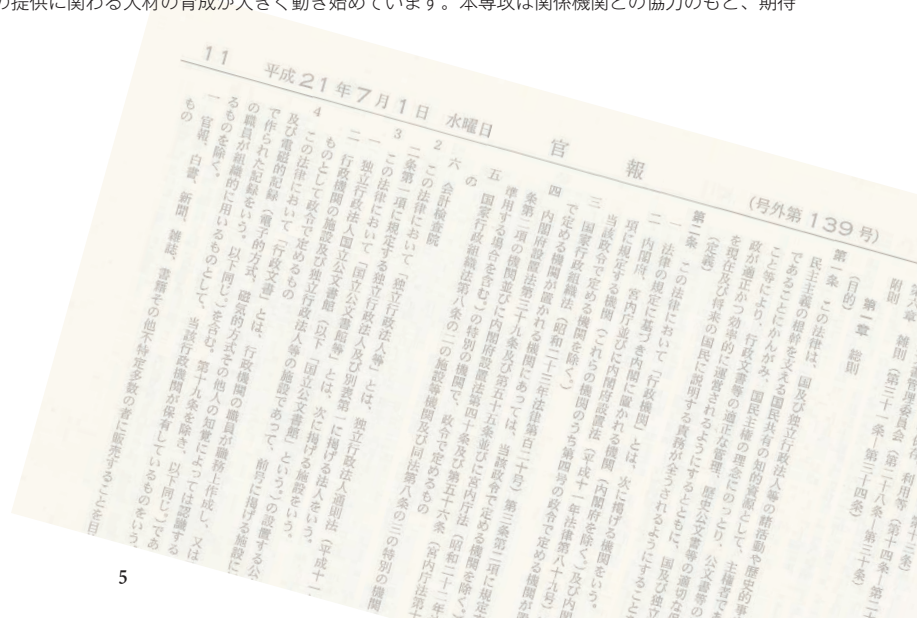
1987年、日本で公文書館法が制定され、国や地方公共団体に対して記録・アーカイブズに関して適切な措置をとる責務が課されました。ところが、アーカイブズの活動の中核を担うべき専門職＝アーキビストについては、その養成体制が整備されていないことを理由に、「当分の間」は必ずしも配置しなくても良いとされ、現在に至ります。

この間、30年以上もの時が経過しましたが、数多くの人々がその状況を打破する努力を重ねてきました。さらに、2009年に政府提案により制定された公文書管理法では、公文書等を「民主主義の根幹を支える国民共有の知的資源」として位置付けるなど、国や社会が記録・アーカイブズに向けるまなざしや期待は大きく変わりつつあります。

2012年には、日本アーカイブズ学会が「登録アーキビスト」の取り組みを始め、優れた専門的な人材を記録の管理やアーカイブズの保存と利用に携わる機関や団体へと送り出すことができるようになりました。

さらに特筆すべきことは、国が公文書館等で活躍する人材の育成を念頭においた公的な認証制度を2020年からスタートさせたことです。この「認証アーキビスト」のしくみのなかで、本専攻はアーキビストとして必要な知識・技能等について大学院修士課程における科目修得によって体系的に修得することができる教育機関として位置づけられています。また、2024年からはそのような知識・技能等を備えた人々を公的に認めることで、大学院修了後の専門人材育成の道筋を示し、その育成環境の充実とアーカイブズ機関での定着を図ることを目的とした「准認証アーキビスト」制度が新たに設けられました。

国や社会の根幹を支える記録・アーカイブズの保存とアクセスの提供に関わる人材の育成が大きく動き始めています。本専攻は関係機関との協力のもと、期待される社会的使命に応えていくことを目指しています。



CURRICULUM

>> カリキュラム

中核科目 Core subjects

- アーカイブズ学概論 Introduction to Archival Science
- アーカイブズ学理論研究 Study on Archival Theory and Methodology
- 記録アーカイブズ研究 Study on Records and Archives
- アーカイブズ管理研究 Study on Records and Archives Management
- アーカイブズ管理演習 Seminar on Records and Archives Management
- デジタルアーカイブズ Digital Archives

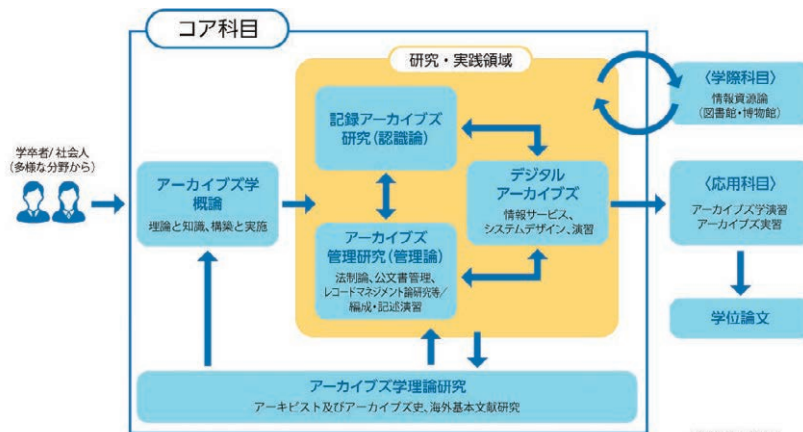
学際科目 Interdisciplinary subjects

- 情報資源論 Study on Information Resources

応用科目 Applied subjects

- アーカイブズ学演習 Seminar in Archival Science
- アーカイブズ実習 Practice in Archives

※修了に必要な単位 ● 博士前期課程：必修科目 24 単位、選択必修科目 4 単位以上、計 30 単位以上 ● 博士後期課程：計 20 単位以上



≫「カリキュラム・ポリシー」の要旨

- ①基礎となる「アーカイブズ学概論」を起点に、記録とアーカイブズを探究する「記録アーカイブズ研究」、管理のための知識と技法を学ぶ「アーカイブズ管理研究」、デジタル記録のアーカイブズ化という新しい課題領域に向き合う「デジタルアーカイブズ」、理論と実践の歴史的経過や海外での展開を学ぶ「アーカイブズ学理論研究」を通して、中核的な知識を体系的に修得することを目指しています。
- ②より広い情報資源論という領域からアーカイブズ学を位置づける視点を獲得するため、図書館情報学及び博物館情報学に関する「情報資源論」を学際科目として配置しています。
- ③基礎的研究能力を養成しながら、アーキビストとして直面する現実的課題を科学的かつ実践的に解決する能力を育成するため、「アーカイブズ管理演習」「デジタルアーカイブズ演習」「アーカイブズ学演習」を応用科目として配置しています。
- ④「アーカイブズ実習」では、アーカイブズ機関における専門的業務の在り方を観察ないし模擬体験することにより、業務の実際を理解するため、2週間の機関実習を行っています（博士前期課程では2年間で計4週間の実習が予定されています）。
- *詳細についてはアーカイブズ学専攻ホームページに掲載の「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」を参照してください。

≫ 学位と履修

博士前期課程では、2年以上在学して30単位以上を修得し、修士論文を提出の上、最終試験に合格した者に「修士（アーカイブズ学）」の学位を授与します。なお、科目等履修生などで一定の単位数を修得し、優れた研究業績をあげた場合には、修業年限を1年とすることができます（要事前相談）。

博士後期課程では、3年以上在学して20単位以上を修得し、博士論文を提出の上、最終試験に合格した者に「博士（アーカイブズ学）」の学位を授与します。

≫ 授業と時間割

平日の5限（16：15～18：00）、6限（18：10～19：55）と土曜日に授業を集約し、働きながらも2年間で必修となる科目を履修することが可能です。なお、アーカイブズ実習での2週間の機関実習は夏季を中心に実施しています。

※本専攻では、平日5・6時限の授業時間について、一部を除き、特例的な運用で開講しています。

【参考】博士前期課程 1年次の平日と土曜日（イメージ）

<平日の例>（日中に仕事のある場合）

9：00	出勤	
(16：15)		記録アーカイブズ研究…次年度に履修！
17：30	退勤	↑隔年度で5限と6限は入れ替えて開講↓
18：10		デジタルアーカイブズ演習

<土曜日の例>

8：45	アーカイブズ学概論Ⅰ（講義）	15：10	アーカイブズ実習（事前指導）
10：40	アーカイブズ学概論Ⅱ（講義）	17：10	教員と面談（論文指導）
13：15	アーカイブズ学演習（ゼミ）	18：00	院生の自主ゼミへ参加



>> 授業科目 Course of GCAS

必修科目

アーカイブズ学演習 <アーカイブズ学研究法>

Seminar in Archival Science <Archival research methodology>

個人研究や共同研究を通じて学生の研究能力を開発し、研究者・専門職人としての倫理、実践的な問題解決能力を育成する。

アーカイブズ管理演習

Seminar on Records and Archives Management I <Arrangement and description of archives>

記録アーカイブズの構造やコンテキストを科学的に研究し、適切な方法で整理・記述するための実践的訓練を行う。

デジタルアーカイブズ演習

Seminar on Records and Archives Management II <Information technology in archives>

情報科学の基礎とともに、アーカイブズ分野における情報技術やネットワーク・システムについて学ぶ。

アーカイブズ実習

Practice in Archives

アーカイブズ機関実習と事前学習・事後の発展研究。

選択必修科目

アーカイブズ学概論Ⅰ <現代アーカイブズ制度とその機能>

Introduction to Archival Science I

原則や理論、レコード・コンティニウム論、法制度論、専門職倫理などアーキビストに必要な知識と技法を学ぶ。

アーカイブズ学概論Ⅱ <現代アーカイブズの構築と実施>

Introduction to Archival Science II

システム設計から調査論、評価論、情報サービスまでアーカイブズを科学的に保存活用する現代的方法を考える。

アーカイブズ学理論研究Ⅰ <アーカイブズ及びアーキビスト>

Study on Archival Theory and Methodology I <History of Archives and Archivist>

世界と日本における現在までのアーカイブズの発展過程と、国・社会を支える根幹システムとしての将来を展望する。

アーカイブズ学理論研究Ⅱ <海外基本文献研究>

Study on Archival Theory and Methodology II <Overseas archival science literature>

海外の研究動向を概観するとともに、優れた英語文献を講読することによって国際水準の研究を学ぶ。

記録アーカイブズ研究Ⅰ <前近代の組織と記録>

Study on Records and Archives I <Pre-modern organizations and records>

前近代日本の様々な組織体の構造と機能について記録システムを中心に研究し、記録アーカイブズの価値を探究する。

記録アーカイブズ研究Ⅱ <現代日本の組織と記録>

Study on Records and Archives II <Modern organizations and records>

国、地方自治体等の組織構造と機能について記録システムを中心に研究し、記録アーカイブズの価値と可能性を追求する。

記録アーカイブズ研究Ⅲ <近現代日本の公文書管理制度成立史>

Study on Records and Archives III <Public records management system of modern Japan>

近代日本の公文書管理制度の特質を歴史的に検討し、私文書を中心とする幅広い記録アーカイブズについて認識と理解を深める。

記録アーカイブズ研究Ⅳ <東アジアにおける記録の歴史と現在>

Study on Records and Archives IV <East Asian records and archives>

近現代の中国とベトナムを中心に記録と記録システムの歴史を研究し、それぞれの社会における記録アーカイブズの意味と特質を考える。

アーカイブズ管理研究Ⅰ <アーカイブズ管理法制論>

Study on Records and Archives Management I <Legal system for the management of records and archives>

記録アーカイブズの管理法制について正確な知識を身につけるとともに、法的思考力を鍛え、新たな制度を創造できる力を養成する。

アーカイブズ管理研究Ⅱ <現代の組織とレコードキーピング活動>

Study on Records and Archives Management II <Record keeping program in modern organizations>

現代デジタル社会における組織のレコードキーピングについて、制度と技術、理論と実務の観点から、具体的事例も交えて総合的に考察する。

アーカイブズ管理研究Ⅲ <レコード・マネジメント論>

Study on Records and Archives Management III <Records management>

レコード・マネジメント(記録管理)とアーカイブズとの密接性という観点から、レコード・マネジメントの理論と実践について理解する。

アーカイブズ管理研究Ⅳ <記録アーカイブズの保存と修復>

Study on Records and Archives Management IV <Preservation and conservation of archives>

紙から電子記録まで、様々な記録アーカイブズを物理的に保存・管理していくための科学的な考え方と方法について学ぶ。

アーカイブズ管理研究Ⅴ <視聴覚アーカイブ論>

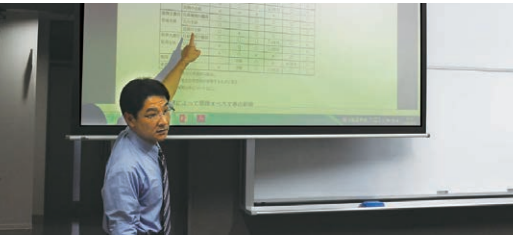
Study on Records and Archives Management V <Audiovisual archive>

映画、テレビ番組、録音資料などを保存してきた視聴覚アーカイブの歴史と現状、機能の概要を学び、アーカイブズ機関における視聴覚資料/記録について考える。

デジタルアーカイブズⅠ <システムデザインと法務>

Digital Archives I

システムデザインと国内外の施策や規範、知的財産保護などの法務の観点からデジタルアーカイブズの現状と課題を俯瞰する。



デジタルアーカイブズⅡ＜サービスの構築と提供＞ Digital Archives II

コンテンツの構築と管理、サービスのためのシステムについて、インターネット空間とリアル空間での活動の複合・再編成という観点から研究する。

選択科目

情報資源論Ⅰ＜図書館情報学研究＞

Study on Information Resources I <Library and information science>

情報資源の保存活用という点で共通性を持つ図書館情報学について学び、アーカイブズ学との連携を考える。

情報資源論Ⅱ＜博物館情報学研究＞

Study on Information Resources II <Museum information studies>

情報資源の保存活用という点で共通性を持つ博物館情報学について学び、アーカイブズ学との連携を考える。

≫ 専任教員 Professor

久保山 哲二 教授

Tetsuji KUBOYAMA

研究テーマ

情報科学、計算アーカイブズ学

担当授業

デジタルアーカイブズ演習



武内 房司 教授

Fusaji TAKEUCHI

研究テーマ

東アジアの記録とアーカイブズ

担当授業

記録アーカイブズ研究Ⅲ



千葉 功 教授

Isao CHIBA

研究テーマ

日本近代の記録とアーカイブズ

担当授業

記録アーカイブズ研究Ⅱ



保坂 裕興 教授

Hirooki HOSAKA

研究テーマ

アーキビスト教育論、
デジタル・アーカイブズ論

担当授業

アーカイブズ学演習
アーカイブズ実習



下重 直樹 教授

Naoki SHIMOJU

研究テーマ

記録認識論、記録管理制度論

担当授業

アーカイブズ学演習
アーカイブズ実習
アーカイブズ学概論Ⅰ
デジタルアーカイブズⅠ
記録アーカイブズ研究Ⅱ



大木 悠佑 助教

Yusuke OHKI

研究テーマ

アーカイブズ学、記録管理制度論

担当授業

アーカイブズ学理論研究Ⅱ
アーカイブズ管理研究Ⅱ



PROGRAM / TOUR

≫ 入学後の生活(博士前期課程の場合)

1 年次	2 年次
* 4月入学 みんなゼロからスタート！ アーカイブズ学の理論等の基礎を学ぶ 必要な専門科目の履修 ゼミ以外の必修科目の履修（推奨） 得られた知識・技能を研究へ反映！ ゼミでの報告と討論（学んだことを表現する） * 国内研修旅行（例年7月頃） アーカイブズ実習（知識や理解を確かなものに） * 8～9月頃に2週間程度の機関実習	さらに必要な専門科目の履修 修論執筆 提出 * 6月修論中間報告 * 11月修論最終報告 * 1月修論提出（2月口述試験） ゼミでの報告と討論（学んだことを表現する） * 国内研修旅行（例年7月頃） アーカイブズ実習（知識や理解を確かなものに） * 8～9月頃に2週間程度の機関実習
研究者・専門職としての基礎づくり	研究者・専門職としての自立

≫ 入学後の生活(博士後期課程の場合)

1年次	2年次	3年次
*4月入学 必要に応じてアーカイブズ学の理論等の基礎を学ぶ 必要な専門科目の履修 得られた知識・技能を研究へ反映！ *国内研修旅行（例年7月頃） ゼミでの報告と討論（研究の基本デザインの設計） 論文指導／学術論文等の執筆活動	さらに必要な専門科目の履修 *国内研修旅行（例年7月頃） ゼミでの報告と討論（研究の枠組を拡げ、展開する） *10月博論中間報告 学位論文の執筆	さらに必要な専門科目の履修 *国内研修旅行（例年7月頃） ゼミでの報告と討論（学び、考えたことを表現する） *6月博論最終報告 *9月提出 *2月口述試験
研究者としてのスタート	研究の「経」と「緯」をさらに広げる	教育指導者、高度研究者・専門職としての自立

≫ 研修旅行

国内研修旅行（1泊2日）と海外研修旅行（3泊4日）を実施しています。国内研修旅行は、都道府県レベルのアーカイブズ機関等を見学するとともに、専攻学生の交流を深める場としても位置づけています。海外研修旅行は、アジア諸国のアーカイブズ機関の見学とアーキビスト教育課程をもつ大学との研究交流を目的としています。

国内（近年の実績）

年度	行き先	主な訪問先
2020	大分県	大分県公文書館、大分県立先哲史料館、日出町歴史資料館、竹田市歴史文化館、臼杵市文化財管理センター、臼杵市歴史資料館（2泊の視察実習として実施）
2021	長野県	長野市公文書館、安曇野市文書館、松本市文書館、長野県立歴史館、上田市公文書館（2泊の視察実習として実施）
2022	茨城県	常陸大宮市文書館、茨城県立歴史館、徳川ミュージアム、弘道館
2023	石川県	石川県立図書館、金沢市公文書館、金沢市立玉川図書館近世史料館、中谷宇吉郎雪の科学館、真宗大谷派常福寺
2024	山形県	山形県公文書センター、山形県郷土館「文翔館」、結城豊太郎記念館、米沢市上杉博物館

海外（近年の実績）

年度	行き先	
2015	ソウル（韓国）	< 主な訪問先 > 民主化運動記念事業会史料館、明知大学校、梨花女子大学校梨花歴史館、国家記録院ソウル記録館 < 研究交流会 > 明知大学校記録情報科学専門大学院
2017	ハノイ（ベトナム）	< 主な訪問先 > 国立第一アーカイブズセンター < 研究交流会 > ベトナム国立大学ハノイ校人文社会科学大学アーカイブズ学・オフィスマネジメント学部

STUDY and RESEARCH ACTIVITIES

≫ 高度化と国際化の推進

客員教授

年度	教員名
2009～ 2011	菊池 光興 (独立行政法人国立公文書館) ＜特別対談＞「日本のアーカイブズとアーキビスト教育の未来」(2009年6月) ＜講演会＞「跳び込もう!! アーカイブズの柱に」(2010年10月)
2012～ 2015	高山 正也 (独立行政法人国立公文書館) ＜記念講演＞「公文書管理法の公布と施行をめぐって：アーキビストの養成と記録・文書管理学の確立」(人文科学研究所研究プロジェクト 2014年12月)
2015～ 2018	松岡 資明 (元日本経済新聞社編集委員) ＜講演会＞「より良き社会のために：『記録』が物語るもの」(2015年10月)
2018～ 2021	加藤 丈夫 (独立行政法人国立公文書館) ＜講演会＞「アーキビストへの期待～記録を守る、未来に活かす～」(2021年10月)

招へい研究者

年度	教員名
2007	ブルーノ・デルマ (国立古文書学校、フランス) ＜講演会＞「フランスのアーカイブズとアーキビストー1500年の歴史をたどる」
2008	デイビッド・グレイシー (テキサス大学オースティン校情報学大学院、アメリカ) ＜講演会＞「アーキビストって早起き？ーアメリカにおけるアーカイブズ活動ー」
2009	エリック・ケテラール (元オランダ国立公文書館長、オランダ) ＜講演会＞「記録のパフォーマティブ・パワー」
2010	金翼漢 (明知大学校記録情報専門大学院、韓国) ＜講演会＞「文化資源アーカイビングの未来にむけて」
2012	ルチアナ・デュランチ (ブリティッシュ・コロンビア大学、カナダ) ＜講演会＞「Archival Diplomats and Digital Records」
2014	任眞嬪 (明知大学校記録情報専門大学院、韓国) ＜講演会＞「韓国におけるオープンソース・ソフトウェア記録システムの普及活動 ～(記録文化)を浸透させるために～」
2016	馮惠玲 (中国人民大学情報資源管理学院、中国) ＜講演会＞「デジタルメモリーとアーカイブズ資源開発ー中国の現状を中心にー」
2018	ダオ・デュック・トゥアン (ベトナム国立大学ハノイ校、ベトナム) ＜講演会＞「Japanese Disarmament in Vietnam after the World War II Through Records and Archival Documents in Some Vietnamese Archives」 ＜特別講義＞「ベトナムにおけるアーキビストの養成」
2022	エイドリアン・カニンガム (ICAフェロー、オーストラリア) ＜講演会＞「ICAアーカイブズ記述のためのRiC (レコード・イン・コンテクスト) 概念モデル及びISO 23081記録管理のメタデータ標準：レコードキーピングの新しい世界」 ＜講演会＞「レコードキーピングにおいて世界を先導するオーストラリアの革新ーそれを支えた人々、出来事、環境ー」
2023	イネス・ガビレ (国立文書学校、フランス) ＜講演会＞「今日のフランスにおけるアーカイブズ制度とアーキビスト養成ー国立文書学校の在籍生の視点からー」

学術交流協定

年度	協定校
2010～	明知大学校記録情報科学専門大学院
2012～	ベトナム国立大学ハノイ校 人文社会科学大学アーカイブズ学・オフィスマネジメント学部

>> アーカイブズ学専攻研究室

アーカイブズ学専攻閲覧室(院生室)には、国内外の専門図書・雑誌類と、PC、スキャナー/コピー機などがあります。時間に制約のある社会人学生にも配慮して、夜間や休日の使用も可能となっています。

その他、東1号館13階には、人文科学研究科の大学院生が利用できるオープンな研究エリアやグループ学習室などがあり、自由に使うことができます。

>> 保存修復実習室、史資料調査・作業室(東1号館14階)

東1号館14階には、専攻が管理する保存修復実習室と史資料調査・作業室の2つの施設があり、授業等で活用されています。

保存修復実習室は、アーカイブズ資料の受入作業、保存のための措置、紙資料の修復や簡易なリーフキャスト作業のほか、各種実験も可能な施設です。

史資料調査・作業室は、さまざまなサイズ、形状のアーカイブズ資料の整理に活用できる施設です。写真機材や暗室、また大型のブックスキャナーを備え、資料のデジタル撮影を行うこともできます。

在籍生は自身の研究・作業でも自由に利用することができます。

>> 学生による研究会活動

学生主体で研究会(自主ゼミ)を企画し、英語文献の講読や個別の研究発表を行って、日常的に議論を深め、互いの研究を高め合う場となっています。

>> 資料保存活動 一本専攻の学生が参加した活動一

国内外の資料調査活動、保存活動に積極的に参加し、研究に活かすとともに、その成果を社会や地域に還元しています。

- 島根県飯南町旧村役場文書調査
- 沖縄県伊江島・阿波根昌鴻資料調査会
- 熊本県天草市・天草アーカイブズ史料調査事業
- 山梨県大月市・星野家文書調査
- 山梨県都留市・円通院文書調査
- 接收日系企業史料調査(オーストラリア)
- 国連難民高等分務官事務所資料調査(スイス)
- 金石市被災公文書復旧事業
- 茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク(茨城史料ネット)
- 神奈川歴史資料保全ネットワーク(神奈川資料ネット)
- 日本学会会議資料調査 ほか

>> 『GCAS Report』の発行

研究年報『GCAS Report: 学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻研究年報』を年に1回発行し、専攻の活動と研究成果を発表する場としています。



THESIS



≫ 先輩からのメッセージ

アーカイブズ学専攻の修了生は高度な専門的職業人としてのアーキビストや世界水準のアーカイブズ学の研究・教育者として、様々な場で活躍しています。修士号や博士号を取得した方々からのメッセージをお届けします。



●松山龍彦 学位取得年度：2013 修士論文題目：「キリスト教社団善文書の調査・編成記述・資源化に関する基礎的研究」

私立大学の人事部に勤務しながら、アーカイブズ学専攻（博士前期課程2012-2013年度）に在籍して学びました。課程修了後には図書館歴史資料室の担当になりました。同室は2021年4月からは名称もアーカイブズに改められ、学内各事務室で保存・廃棄していた行政文書を一括管理することになります。それ以外にも教学関係・文化活動・地域関連ほか多様な記録があるのが大学アーカイブズの魅力です。専攻では、志を同じくする先生方・学友たちに囲まれてアーカイブズ学の知識だけではなく、アーキビストとしての責任や使命を学びました。それが日々の業務の支えになっています。

≫ 研究テーマ(論文題目)

社会人を含む様々なバックグラウンドをもつ学生が在籍していることを反映して、多彩なテーマの研究が行われています。

博士論文

- 台湾総督府文書のアーカイブズ学的研究
- 米国型記録管理システムの形成とその日本的展開
- 日本におけるフィルムアーカイブ活動の歴史に関する研究
- 日本における戦前期統治機構の文書管理の基礎的研究—近代のアーカイブズ制度成立への歴史的前提—
- 漫画家の活動記録とアーカイブズ管理に関する研究
- アーカイブズ・アクセス制度に関する日本と中国の比較研究
- 戦後日本企業のアーカイブズ構築に関する基礎的研究—山一證券を事例として—

修士論文（近年提出分）

- 民間所在の地域資料のための災害防備計画—茨城県常総地域の水害リスク評価を中心として—
- 戦前期社会事業におけるケース記録管理の受容過程についての一考察
- 旧開智学校における資料保存活動に関する基礎的研究
- 地方自治体における保健衛生行政文書の適切な保存期間についての考察—許可等に関する文書を事例に—
- 近現代建築物の維持管理に関する組織記録のアーカイブズ記述と管理—朝香宮邸を事例として—
- デジタルアーカイブズの基礎的トレーニングに関する一考察—日米英韓における取組み事例を通して—
- 大学アーカイブズの体制構築に向けた一考察—聖心女子大学50年史編纂事業を事例に—
- 自治体行政文書としての写真管理に関する基礎的研究—千葉県文書館「旧広報課所蔵写真資料」概要調査を事例として—
- 家庭裁判所の記録保存に係る基礎的研究—事件記録等保存規程をめぐって—
- アート・プロジェクト実施団体のアーカイブズ構築
- 災害被災地域の学校資料の特性とアーカイブズ化に関する基礎的研究—福島県大熊町立大熊中学校資料を事例に—
- 近現代日本において二国間交流事業に携わった法人の組織と資料の伝来—公益財団法人日独協会所蔵資料を例に—
- 漆芸家の個人文書の整理及び検索手段に関する基礎的研究—東京藝術大学所蔵「松田権六関係資料」を事例として—



●**齋藤 歩** 学位取得年度：2020 博士論文題目：米国型建築レコード整理法とその日本への応用に関する研究

都内の編集事務所に勤める傍ら、2010年より科目等履修生としてアーカイブズ学の勉強を始めて、翌年から博士前期課程に在籍して修士論文を提出、その後2018年まで博士後期課程で研究を続けました。研究テーマは、一貫して建築分野のアーカイブズ整理法です。2016年からは京都大学総合博物館の教員として、学内の研究者が残した研究資料をアーカイブズとして永久保存する事業「京都大学研究資源アーカイブ」に携わっています。今後はより広い分野でアーカイブズの実践を展開してアーキビストの活躍の場を開拓していきたいです。



●**蓮沼 素子** 学位取得年度：2021 博士論文題目：漫画家の活動記録とアーカイブズ管理に関する研究

宮城県公文書館に勤務している際に東日本大震災で被災し、アーキビストとしてより高い知識とスキルを身につける必要性を感じて、2012年に博士後期課程に進学しました。在学中は、江東区等でアーキビストとして勤務しながら、公文書に限らない多様なアーカイブズ活動に参加する機会を得て、博士論文では漫画家の活動記録を対象に、その管理と活用について研究しました。現在は、大仙市アーカイブズの正規アーキビストとして働いていますが、今後も仕事をしながら漫画家に限らない作家活動の記録を対象に研究を続けていきたいと考えています。

>> 「ディプロマ・ポリシー」の要旨

●「修士（アーカイブズ学）」の学位を得るには…

「知識・技能」 アーキビストに関する機関・団体等が公表する職務基準等を満たす基本的な知識と技能を身につけること。

「思考・判断・表現」 先行研究を十分に学ぶことを通して課題を具体的かつ明確なものにしたうえで研究作業を通して実証的に解決し、学会報告や研究論文等により社会に発信できること。

「関心・意欲・態度」 記録・アーカイブズと人間活動の関係を探究し、保存・利用等についての基本的なプログラムの設計と運用を目指して、公平・中立を守り、証拠を操作して事実を隠蔽・わい曲するような圧力に屈することなく、その使命を追求し、研究及び実践を行う意欲を持つこと。

●「博士（アーカイブズ学）」の学位を得るには…

「知識・技能」 記録・アーカイブズに関する専門的な知識と技能を身につけ、高等教育機関又はアーカイブズ機関等における研究・教育指導を通してアーカイブズ学の発展に貢献できる能力を備えること。

「思考・判断・表現」 記録・アーカイブズに関する諸問題に専門的に取り組み、具体的な調査研究により実証的に解決に導くことができること。さらにアーキビストの倫理を踏まえた研究活動、教育指導を実践できること。

「関心・意欲・態度」 記録・アーカイブズと人間活動の関係を探究し、保存・利用等についての専門的なプログラムの設計と運用を目指して、先行研究を適切に踏まえて実証的に研究を進めるだけでなく、卓越した成果を研究・教育指導に反映する意欲を持つこと。

>> 「論文博士」による博士号取得

博士後期課程に在籍して博士号を取得する方法のほかに、「論文博士」により博士号を取得する方法があります。希望する方は、ご相談ください。

A photograph of a university campus. In the background is a large, multi-story brick building with Gothic-style architecture, featuring arched windows and doorways. In the foreground, there are several large trees with white and pink cherry blossoms. A paved walkway leads from the bottom left towards the building. On the left side of the walkway, there is a white, pyramid-shaped sculpture. A modern street lamp stands on the right side of the path. The word "PROSPECT" is written in large, white, serif capital letters across the center of the image.

PROSPECT

≫ アーキビストの活躍する場所

記録情報専門職としてのアーキビストが活躍する場所は国や地方公共団体の公文書館だけではなく、知的資源としてのアーカイブズを生み出すのは人間の営為であり、人と人とが関わり合う場所がアーキビストの職場となります。

専攻の修了生は記録やアーカイブズを広く社会に共有し、将来へ伝えるために活動する企業やNPO法人、大学・研究機関、博物館・美術館、図書館などでの活躍も期待されています。

※「**准認証アーキビスト**」からスタートし、アーカイブズ機関で一定の実務経験を重ねることで「**認証アーキビスト**」としての資格も得ることができるほか、日本アーカイブズ学会「登録アーキビスト」への登録も可能となります。

出版文化社、ナカバヤシ、
ワンビシアーカイブズ

広島大学原爆放射線医科学研究所、
立教大学共生社会研究センター、
国立武蔵野学院図書資料室、琉球大学、
創価大学、目白大学人間学部、学習院大学、
法政大学大原社会問題研究所、
人間文化研究機構、聖心女子大学、
北京聯合大学



≫ アーキビストの仕事と待遇

アーキビストの代表的な職務は、記録・アーカイブズの「評価選別・収集」「保存」「利用」「普及」ですが、勤務する機関によって、担当する範囲や求められるレベルは異なります。小規模な機関においては、ほとんどの仕事を1人で担当することもあります。さらにアーカイブズの修復作業を行うこともあるため、専攻では必要な技能を習得するためのプログラムも整えています。

●給与について

国のアーカイブズの場合、大学院卒の初任者の段階では非常勤であることがほとんどです（待遇は必ずしも悪くはありません）。一定の実務経験を重ねて資質と能力を高めることで、責任ある職務を担う常勤的なポストに昇任していくことが一般的なキャリアモデルになっています。

（参考）	非常勤（公文書専門員）	常勤（公文書専門官）
初任俸給月額	256,400円	265,300円

※このほか住居手当、交通費など一般的な手当て以外に残業手当等がつきます。

≫ この専攻からアーキビストを目指すメリット

博士前期課程における必修科目と1年次標準履修科目の単位を取得することによって、国の認証アーキビストとして必要な知識・技能等について大学院修士課程における科目修得によって体系的に修得すべき要件を満たし、准認証アーキビストとしてのキャリアをスタートできます(*)。さらにアーカイブズに係る調査研究実績を発表することができる媒体として、年に1回発行している研究年報『GCAS Report: 学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻研究年報』(査読あり)を活用することもできます。

また、本専攻のカリキュラムは日本アーカイブズ学会「登録アーキビスト」の資格申請要件も満たすものになっています(別途1年以上の実務経験が必要)。

* 認証アーキビストの要件としては、ほかにアーカイブズ機関における3年以上の実務経験に加えて、論文等の発表によりその調査研究能力が示される必要があります。

≫ 支援・補助制度

本学には大学院生の研究活動を支援する様々な制度があります。例えば、博士後期課程の授業料の3分の1を補助する給付奨学金、研究費として博士前期課程5万円、博士後期課程20万円を支給する人文科学研究科特別研究費、研究発表時の旅費支給、成績優秀者に対する奨学金制度があります。

さらに本専攻は厚生労働省の教育訓練給付制度講座の指定を受けています。一定の条件を満たした博士前期課程修了者は、申請により授業料の一部(上限10万円)が返還される制度です。

≫ 研究発表

日本アーカイブズ学会(JSAS)、記録管理学会(RMSJ)、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)、Society of American Archivist(SAA)など、研究発表等の機会があります。



>>「アドミッション・ポリシー」の要旨

- 博士前期課程では、以下のような知識・能力や目的意識・意欲を備えた方を試験により選抜して受け入れます。

「知識・技能」 デジタルを含め、あらゆる形式の記録・アーカイブズに関する評価選別・収集、保存、利用、普及に関する基礎的知識。

「思考・判断・表現」 記録・アーカイブズに関する諸問題への関心を具体的な研究課題として基礎的作業や調査研究に反映し、その成果を適切に発表できる。

「関心・意欲・態度」 記録・アーカイブズと人間活動の関係を探究し、保存・利用等についての基本的なプログラムの設計と運用を目指すため、その社会的な使命を自覚して研究・実践に取り組む意欲がある。

- 博士後期課程では、以下のような知識・能力や目的意識・意欲を備えた方を試験により選抜して受け入れます。

「知識・技能」 デジタルを含め、あらゆる形式の記録・アーカイブズに関する評価選別・収集、保存、利用、普及に関する専門的知識。

「思考・判断・表現」 記録・アーカイブズに関する諸問題に専門的に取り組み、具体的な調査研究を通して実証的に解決に導くことを目指すため、アーキビストの倫理を踏まえた研究活動を行なえる。

「関心・意欲・態度」 記録・アーカイブズと人間活動の関係を探究し、保存・利用等についての専門的なプログラムの設計と運用することを目指すため、その学術的及び社会的な使命を自覚して、研究・実践に取り組む意欲がある。

>> 入試情報

年に2回、夏と秋に入試説明会を開催しています。
受験に関するご相談にはいつでも応じます。専攻事務室までお気軽にお問い合わせください。

募集人員

● 博士前期課程 ————— 約15名 ● 博士後期課程 ————— 約3名

入試説明会

例年8月と10月の2回開催

入学試験

● 秋期入学試験 ————— 9月(博士前期課程のみ) ● 春期入学試験 ————— 2月

試験科目

● 博士前期課程 ————— 外国語、アーカイブズ学に関する基本知識・小論文、口述試験

● 博士後期課程 ————— 外国語原書読解、アーカイブズ学に関する専門知識・小論文、口述試験

※入試情報および資料請求については、学習院大学ホームページの「入試情報」をご覧ください。<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/>

令和8(2026)年度入学試験日程

博士前期課程

秋期試験日：2025年9月20日(土)・21日(日)
出願期間：2025年8月14日(木)～18日(月)
春期試験日：2026年2月21日(土)・22日(日)
出願期間：2026年1月13日(火)～15日(木)

博士後期課程

試験日：2026年2月21日(土)・22日(日)
出願期間：2026年1月13日(火)～15日(木)

学習院大学大学院

人文科学研究科 アーカイブズ学専攻

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL:03-5992-1278(直通)

FAX:03-5992-1246

MAIL:gcas-off@gakushuin.ac.jp

<https://www.arch-sci.gakushuin.ac.jp/>



Graduate Course in Archival Science

Graduate School of Humanities

Gakushuin University

1-5-1 Mejiro, Toshima-ku, Tokyo 171-8588 Japan

PHONE: +81-3-5992-1278

MAIL: gcas-off@gakushuin.ac.jp (office)

<https://www.arch-sci.gakushuin.ac.jp/>